

老いも若きもみんなががんばる川東

～地域の教育力を高めよう～



川東地区福祉懇談会 川東地区自治連合会

新発田市・社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

ご あ い さ つ

この度、新発田市と新発田市社会福祉協議会のご協力により、当川東地区の「福祉活動計画」を策定させていただきました。

川東地区は、かつて本間百在門村長が村の振興は教育からとの信念で、31年間村政を主導し、地域の教育力を高めたことが「教育村川東」と称され、誇らしく語り継がれてきました。

この地を、みんなの力で「限界集落」という言葉を吹き飛ばすためにも、川東地区福祉懇談会では、自治連合会を中心として、各組織及び団体等の代表はもとより、地区回覧文書を通してご参加いただいた大勢の方々の想いを楽しい中にも真剣に話し合いました。

この計画は、自らの手で地域を築こうという有志の皆様で3回懇談会を開催し、語り合いの中で地域の課題をみつめ、そして、地域の魅力を再確認しあいながら、話し合いを重ねてまとめたものであります。

この懇談会を重ねるごとに、愛する大好きなふるさと川東の将来は、やはり地域住民が主体となって考え協調し、お互いに助け合える関係を築く事が大切であるとのことが確認出来ました。

これを機会に、更に検討を加える機会を作りながら、より議論を深めて、実践につなげられればと願うところであります。



平成27年3月

川東地区自治連合会 会長 相馬 義雄

目 次

1 地域伝言板	
川東の略史	1
2 計画の概要	
(1) 川東地区福祉活動計画とは	3
(2) 川東地区福祉活動計画の目的	3
(3) 川東地区福祉活動計画の推進に向けて	3
(4) 川東地区福祉活動計画づくりの意義	4
3 地域の魅力と現状	
(1) 地域の魅力について	5
(2) 地域の現状について	5
4 福祉活動計画	
(1) 基本理念	6
(2) 基本目標	6
(3) 計画の実現に向けて	7
5 策定方法	
(1) 川東地区福祉活動計画策定団体等	9
(2) 川東地区福祉活動計画策定経過	10
(3) 川東地区福祉懇談会で出された意見	11
6 参考資料	
「新発田市地域福祉(活動)計画」の基本理念と体系	18
川東地区福祉懇談会回覧	21

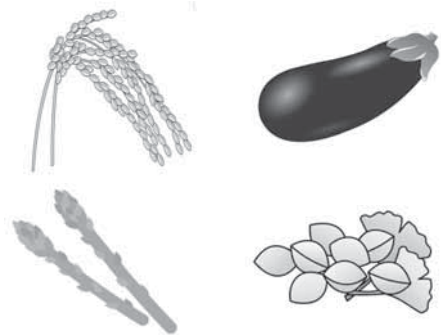
1 地域伝言板



川東地区は、広大な面積の農地を有する農村地帯。稲作を中心に畜産、畑作など多様な農産物生産基地となっています。

二王子岳の斜面に作られたスキー場や鎌倉時代の建長年間に領主大友実秀が創建したと伝えられる大友稻荷があります。

主な農産物：米 なす アスパラ ぎんなん
主な酪農：乳牛



● 川東の略史 ●

《先史時代から室町時代末》

弥生時代から古墳時代に移り日本は国家形成に向かうが、この地でも独自の農耕社会が営まれたに違いない。やがてヤマト政権は大化3年（647年）淳足（沼垂）柵を設け東北日本をも統一しようとする。徐々に川東もこれに組み込まれたことであろう。

平安時代末期（10世紀末～12世紀初頭）には加地荘の一部として城氏（平繁成の系統）がこの地を支配した。治承寿永の内乱（源平合戦）を経て平氏の流れを汲む城氏は滅んだ（建仁元年・1201年）。鎌倉幕府が開かれるのに先立ち覇者、源頼朝に仕える佐々木盛綱が加地の荘に入り（建久2年・1191年）統治した。

その後、佐々木氏は勢力を拡大し加治川右岸には加地氏、竹俣氏、左岸には新発田氏、五十公野氏などに分脈した。彼らは揚北衆と呼ばれた。竹俣氏は安土桃山時代まで越後平野北部の国人（半独立的な在地の領主）で田畑の開発を推進し農民の一部を武士団に編成したりもした。

《戦国期から川東村の誕生まで》

はじめて竹俣氏を称したのは加地季綱の時で応永20年（1413年）ころという。北楯の居館に二俣の竹が生え、三光に城郭を築いた時もまた、生えたので竹俣氏を称した。

紆余曲折の末、新発田合戦で上杉景勝は新発田重家を討った（天正15年・1587年）が、この時竹俣氏は景勝に加担しその家臣となった。その後、上杉氏は会津若松、さらに米沢（慶長6年・1601年）と転封するが当主の竹俣利綱もこれに従い最終的には米沢に移った。

江戸時代、川東は黒川藩領だった。五代将軍綱吉の側用人として名高い柳沢吉保の四男、経隆が享保9年（1724年）一万石の格式で藩主となった。陣屋を黒川（胎内市新屋敷）に置いただけで定番の武士は数人という小さな藩で、殿様はほとんど江戸暮らしだった。

この藩は黒川組（13ヶ村＝村は今日の集落）、蔵光（または熊出）組（16ヶ村）と大友組（13ヶ村）と三つに分けて統治した。山間地の開発や文教に積極的な方策をとるでもなく庄屋層に支配を任せ、八代も続いた。収奪には熱心で年貢は収穫高の43%にも及び農民にとって過酷な負担だった。享保10年（1725年）、藩の取り立てに抗して大友村の名主、惣左衛門らが江戸に訴訟に出たが、藩はあとで関係者を厳罰に処した。

戊辰戦争時の藩主は光邦で倒幕だったが、終始及び腰であった。明治4年（1871年）廃藩置県によって旧黒川領は新潟県に編入された。その後、川東地区は明治22年（1889年）大宮、板津、石田、楠川の4カ村に編成された。

明治34年（1901年）11月1日に大宮村、板津村、石田村、楠川村（後に竹ノ俣村）が合併し、川東村が誕生した。昭和30年（1955年）3月31日には、新発田市に編入した。

～出典：「教育村川東 - 本間百在門と村人の軌跡一」（発行者）川東地区自治連合会～

◇◆ 教育村川東 ◆◇

《歴代村長》

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ●初代村長 洪谷 昌 | ●二代村長 星野 鹿蔵 | ●三代村長 本間百在門 |
| ●四代村長 宮野真三郎 | ●五代村長 本間喜榮門 | ●六代村長 宮村嘉久男 |



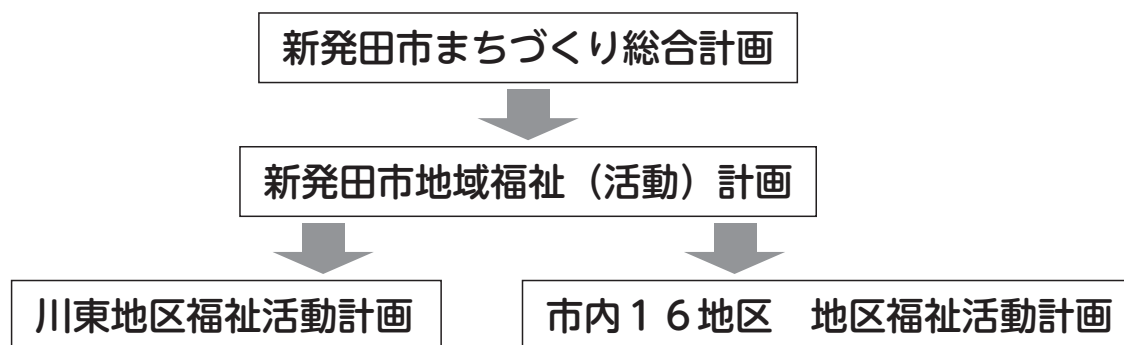
2 計画の概要

● (1) 川東地区福祉活動計画とは ●

少子高齢化社会を迎え、社会全般が大きく変化している中、行政への市民要望は年々増大していますが、一人ひとりに適したきめ細かなサービスを行政だけの力で提供することは困難になっています。このため、市民が自立した生活をめざし、地域での福祉を「支え合い」によるシステムという新たな視点で再構築し、維持していく仕組みをつくりあげることが重要となっています。

新発田市は「まちづくり総合計画」の中で、あるべき将来都市像を「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」としています。その基本理念の下に、新発田市地域福祉(活動)計画は、「しばたに住んで良かった。」と市民が言えるよう、地域において市民や福祉関係者、社会福祉協議会、行政が相互に知恵を出し、力を合わせながら、高齢者や障がい者など支援が必要な市民が地域で安心して生活を送ることができる“共生社会”の実現を目指しています。

「川東地区福祉活動計画」は、地域の中で問題となっていること、困っていることなどを「地域みんなの問題」として捉え、話し合い、取り組んでいくための指針であり、「新発田市まちづくり総合計画」、「新発田市地域福祉(活動)計画」に基づいた計画です。



(順次策定しています。)

※地域福祉とは、「適切な地域を単位として」「地域住民が主体となり」「地域課題の解決に向けて」「自治会と行政なども含め」「お互いに知恵を出し合い」「支え合っていく」ことです。

● (2) 川東地区福祉活動計画の目的 ●

川東地区に対する想いを語り合うことを通して、「地域の魅力と現状」、「地域でできること」、「自分でできること」、「こうなったらいい」などを一緒に考え住民主体の地域福祉づくりを行政、社会福祉協議会、関係機関などと連携して進めていきます。高齢者や障がい者など支援の必要な市民が地域(川東地区)で安心して生活できる“共生社会”の実現をみんなで目指します。

● (3) 川東地区福祉活動計画の推進に向けて ●

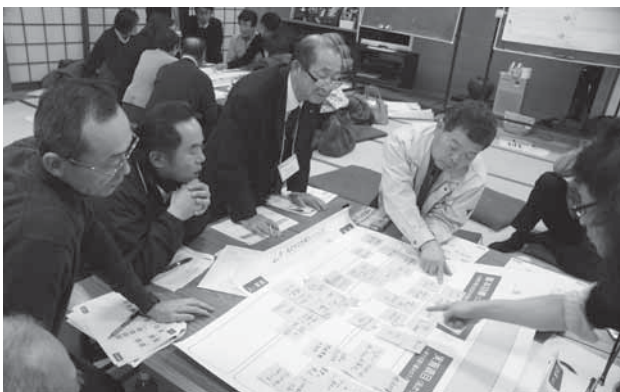
計画づくりの過程を通じ、みんなで同じ方向を向いて協働していくために、地域の課題や目標を共有しましょう。その上で、川東地区の中・長期的な目標として位置づけ、地域の方々と行政や社会福祉協議会などが連携して取組を進めていくことが重要です。

● (4) 川東地区福祉活動計画づくりの意義 ●

川東地区福祉活動計画を地域みんなで作ることで

- ① 地域の課題や目標を関係者で共有し、同じ方向を向いて協働することができる。
- ② 計画を公表することで、地域の福祉活動について、広く地域住民の理解と協力が得られる。
- ③ 中長期的な見通しを持って、段階的・継続的に取り組んでいくことができる。
- ④ 活動の優先順位や重点がはっきりする。
- ⑤ 活動がうまく展開されてきたか振り返り、次の課題を明らかにすることができる。
- ⑥ 計画づくりの過程で人が育ち、地域の関係者の連帯も強くなる。

みんなで作る川東地区福祉活動計画



3 地域の魅力と現状

川東地区福祉懇談会で見えてきた魅力と現状

川東地区に住んでいる子どもから高齢者まで、すべての住民が地域においていきいきとした生活を送ることは川東地区住民のみんなの願いです。

この目的のため、地域住民や行政、社会福祉協議会、民間の福祉サービス事業者等が協働しながら、みんなで川東地区福祉活動計画を策定しました。

計画策定の具体的作業として、平成26年10月～平成26年12月まで3回にわたり福祉懇談会を開催し、地域の魅力と現状や福祉に関わる様々な課題について、話し合いをまとめました。

● (1) 地域の魅力について ●

① 地域活動について

- ・地区が活性化している
- ・地域活動が活発である
- ・友愛訪問活動が続いている
- ・全集落に自主防災組織がある
- ・行事が多く、子どもからお年寄りまで参加できる

② つながりについて

- ・人と人のつながりがある
- ・結の社会が残っている
- ・隣近所の顔が見える
- ・集落では「まとまり」が良い

③ 社会資源について

- ・コミュニティバスが走っている
- ・コミュニティセンターができる

④ 地域性について

- ・隣近所の付き合いが深い
- ・住民の方が親切である
- ・人柄がいい
- ・教育村の伝統
- ・山や川など自然が豊かである
- ・農作物が豊富
- ・古い歴史や文化が残っている

● (2) 地域の現状について ●

① 地域について

- ・空家、廃屋が多い
- ・子どもたちの虫歯が多い
- ・子どもが少なくなっている
- ・認知症の方が増えている
- ・若者の独身者が多い

② 生活について

- ・年をとって楽しめる場が少ない
- ・若い人の活躍の場面がほしい
- ・除雪の困難な方が増えてきている

③ つながりについて

- ・人のつながりが希薄化している
- ・無関心が増加している

④ 後継者不足について

- ・自治会などの役員のなり手がいない
- ・地域の役割を担う人が片寄っている

4 福祉活動計画

川東地区福祉活動計画

● (1) 基本理念(スローガン) ●

川東地区に住む住民一人ひとりが地域活動に積極的に関わり、お互いが個人として尊重しあい、生きがいや充実感をもちながらその人らしい生活ができることを目指していくことが大切です。こうしたことから次のとおり計画の基本理念を定めました。

**老いも若きもみんな
がんばる川東**
～地域の教育力を高めよう～



● (2) 基本目標 ●

福祉懇談会で話し合われた地域の魅力と現状及び課題に基づき、計画の基本目標を次のとおりとしました。

基本目標 1	世代を超えて思いやり 支え合う川東
基本目標 2	ふれあい つながり 活気ある 安心で安全な川東
基本目標 3	地域のこどもをみんなで育て見守る川東
基本目標 4	自然に親しみ豊かな心をはぐくむ川東
基本目標 5	地域の課題にみんなで取り組む川東

● (3) 計画の実現に向けて ●

目標達成の具体的な取組の例 → 福祉懇談会では
自分達でどんなことができるのか
アイデアを出し合いました。



- ◆基本目標 = こんな地域であつたらいいな
- ◆実施項目 = 私たちにできること(取組の例)

基本目標 1 世代を超えて思いやり 支え合う川東

目 標		実施項目(取組の例)	
1	老いも若きも互いの良い所に気づき思いやる そして支え合いつながる	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトなおせっかい ・回覧板で『こんにちは』 ・地域の茶の間

基本目標 2 ふれあいつながり 活気ある 安心で安全な川東

目 標		実施項目(取組の例)	
1	ふれあいつながり 活気ある地域づくり	1	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔と思いやり ・元気にあいさつ ⇄ 自分から声をかける ・コミュニティセンターをみんなで活用する
2	安心で安全な地域づくり	2	<ul style="list-style-type: none"> ・集落自主防災組織の活性化と連携 ・川東地区防災組織連絡会の強化 ・あいさつ運動で、子どもの見守り ・ゴミを拾う ・声かけ運動で、高齢者の見守り ・集落共同活動



基本目標3 地域の子どもをみんなで育て見守る川東

目 標		実施項目(取組の例)	
1	地域の子どもはみんなの宝 地域の教育力を高める	1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの手本となる大人に ・ベテランが活発な子育て支援をする ・昔遊び ・地域伝統行事の参加
2	少子化対策	2	<ul style="list-style-type: none"> ・婚活支援 ・子育て支援

基本目標4 自然に親しみ豊かな心をはぐくむ川東

目 標		実施項目(取組の例)	
1	豊かな自然環境を守る	1	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン作戦を行う ・ホタルやトノサマガエルを守る ・緑を増やす植樹を行う ・自然の山野草を守る ・河川の自然生物を守る ・鳥獣被害対策の充実 ・農作物の栽培や収穫体験
2	自然に親しみ豊かな心を育む環境を守り つないでいく	2	<ul style="list-style-type: none"> ・世代間交流で、若い人に自然の良さを伝える ・世代間交流で、自然の遊びを教える ・二王子登山 ・天然プールの活用 ・農産物の栽培

基本目標5 地域の課題にみんなで取り組む川東

目 標		実施項目(取組の例)	
1	地域活動の拠点 コミュニティセンターの 有効活用の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの有効活用 ・コミュニティセンターまつりの開催 ・利用団体の育成・誘致 ・魅力的な自主事業の開催
2	心豊かな人づくり	2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと高齢者がふれあえる地域 ・伝統文化の継承 ・大運動会 ・世代間交流事業
3	地域活動の活性化	3	<ul style="list-style-type: none"> ・文化交流の集いの開催 ・芸能発表会の開催 ・地域行事への積極的参加 ・地域の各種団体の活動強化 ・婚活事業の推進 ・ボランティア活動の活性化 ・培った専門的な能力を、地域で活用する ・地域内共同行事の強化 ・他地域団体との活発な交流 ☆コミュニティバスを利用する

5 策定方法

● (1) 川東地区福祉活動計画策定団体等 ●

この川東地区福祉活動計画は、自治連合会を中心に民生委員児童委員、主任児童委員、自治連合会福祉部、自治連合会育成部、自治連合会自治防災部、地域課題検討委員会、川東保育園保育会、老人クラブ協議会、新発田東地域包括支援センターなどの人達が福祉懇談会を開催し、地域の魅力と現状及び課題を把握して、基本目標、具体的な取組事例として策定しました。

■川東地区自治会

1	小戸	10	田貝	18	西姫田
2	宮古木	11	虎丸	19	石喜
3	車野	12	上三光	20	下高関
4	上大友	13	下三光	21	敦賀
5	下大友	14	上楠川	22	上岡田
6	板山	15	下楠川	23	下岡田
7	上羽津	16	南楯	24	長峰
8	下羽津	17	東姫田	25	上車野
9	本間新田				

- 民生委員児童委員
- 主任児童委員
- 自治連合会福祉部
- 自治連合会育成部
- 自治連合会自治防災部
- 地域課題検討委員会
- 川東保育園保育会
- 老人クラブ協議会
- 新発田東地域包括支援センター

■川東地区の人口（国勢調査）

※国勢調査の集計であり、各自治会ごとの集計ではありません。

	平成17年				平成22年				増減数			
	世帯数	人口			世帯数	人口			世帯数	人口		
		総数	男	女		総数	男	女		総数	男	女
川東地区計	1,288	5,531	2,573	2,958	1,234	5,038	2,340	2,698	△54	△493	△233	△260
小戸	89	366	166	200	87	327	150	177	△2	△39	△16	△23
宮古木	89	379	199	180	89	362	182	180	0	△17	△17	0
大友	127	527	243	284	124	502	234	268	△3	△25	△9	△16
本間新田	26	105	52	53	27	105	53	52	1	0	1	△1
敦賀	19	82	41	41	19	77	37	40	0	△5	△4	△1
板山	126	524	248	276	117	469	211	258	△9	△55	△37	△18
上羽津	60	279	128	151	61	242	111	131	1	△37	△17	△20
下羽津	124	530	250	280	121	484	222	262	△3	△46	△28	△18
田貝	67	247	119	128	62	225	112	113	△5	△22	△7	△15
虎丸	70	401	162	239	64	380	146	234	△6	△21	△16	△5
南楯	29	104	47	57	26	95	44	51	△3	△9	△3	△6
上三光	62	289	140	149	61	270	133	137	△1	△19	△7	△12
下三光	53	243	114	129	49	205	97	108	△4	△38	△17	△21
上楠川	29	126	61	65	31	127	60	67	2	1	△1	2
下楠川	41	165	76	89	41	149	74	75	0	△16	△2	△14
東姫田	25	111	51	60	25	100	48	52	0	△11	△3	△8
西姫田	27	116	51	65	26	90	40	50	△1	△26	△11	△15
下高関	38	154	68	86	39	150	70	80	1	△4	2	△6
石喜	78	282	133	149	79	271	137	134	1	△11	4	△15
岡田	109	501	224	277	86	408	179	229	△23	△93	△45	△48

● (2) 川東地区福祉活動計画策定経過 ●

年 月 日	会 議 等	内 容
平成26年7月10日	説明会 (農業サポートセンター)	・各町内会長に地域福祉活動計画について説明 (参加者32名)
平成26年7月28日	打合せ (農業サポートセンター)	・自治連合会三役と地区福祉懇談会について打合せ (参加者7名)
平成26年9月10日	打合せ (農業サポートセンター)	・第1回川東地区福祉懇談会について事前打合せ (参加者18名)
平成26年10月1日	第1回 川東地区福祉懇談会開催案内(全戸配布)	
平成26年10月15日	第1回 川東地区福祉懇談会 (農業サポートセンター)	・「地区福祉活動計画について」研修会 敬和学園大学 講師 川本 健太郎 氏 ・グループワーク1 ①私たちの地域のいいところ ②身近なところで困っていること ③こんな地域であつたらいいな ④私たちにできること (参加者59名)
平成26年11月1日	第1回 川東地区福祉懇談会実施報告 回覧	
平成26年11月19日	第2回 川東地区福祉懇談会 (農業サポートセンター)	・グループワーク2 地区の現状と課題の整理 まとめと発表 (参加者37名)
平成26年12月1日	第2回 川東地区福祉懇談会実施報告 回覧	
平成26年12月15日	第3回 川東地区福祉懇談会 (農業サポートセンター)	・グループワーク3 まとめと発表 (参加者33名)
平成27年1月20日	第3回 川東地区福祉懇談会実施報告 回覧	
平成27年1月30日	第1回 編集委員会 (農業サポートセンター)	・川東地区福祉活動計画の基本理念と基本目標 などの検討 (参加者11名)
平成27年2月26日	第2回 編集委員会 (農業サポートセンター)	・川東地区福祉活動計画の目標に向けた実施項目 などの検討 (参加者12名)
平成27年3月16日	説明会 (農業サポートセンター)	・自治連合会役員会に川東地区福祉活動計画(案) について説明 (参加者17名)
平成27年3月17日	第3回 編集委員会 (農業サポートセンター)	・川東地区福祉活動計画のデザイン構成などの調整 (参加者9名)
平成27年3月31日	・川東地区福祉活動計画完成	

● (3) 川東地区福祉懇談会で出された意見 ●

グループに分かれて、地域の魅力と現状や課題を共有し、地域の皆さんで支え合いの知恵を出し合いました。懇談会で皆さんが話し合われた意見をご紹介します。(グループごとに掲載しています)

1 私たちの地域のいいところ

- ・子ども達のあいさつが素晴らしい
- ・子ども達がおおらかで元気なこと
- ・子ども達が素直である
- ・よくあいさつをする
- ・人と人のつながりがある
- ・私の地域(板山)では、様々な行事を通じて子どもから高齢者まで、ふれあえる場が充実している
- ・イベントで仲間作りが出来ている(板山)
- ・地域で課題を見つけ出し、可決に向けた検討会がある
- ・地区が活性化している
- ・全集落に自主防災会(組織)がある
- ・物のやり取りがよくある
- ・災害が少ない
- ・大きな事件事故が少ない
- ・お米や野菜作りが上手で、とても評判が良い
- ・自然が多い
- ・自然豊かな所
- ・子どもみこしの購入を検討している
- ・特別支援学級ができて、地域外の交流が生まれた
- ・近所付き合いがとても良い(見守りの声かけを)
- ・中学生のあいさつが良い
- ・地域みんなが安心・安全に暮し続けられることを基本として取り組んでいる(自治会の基本)
- ・地域の親睦を図る為、盆踊り・どんど焼きの再開
- ・当集落内の農家と非農家の協同作業が、皆さん協力的で大変良い
- ・地域活動が活発である
- ・小学校が統合され近くになった 大変良い
- ・結の社会が残っている
- ・高校・大学・その他都市間、学校間からの地域交流が活性化している
- ・老若男女が一体となって、イベント・行事が盛んである
- ・職場と住宅が近くが良い
- ・親切な人が多い
- ・勝手に家に入れる
- ・隣付き合いが深い
- ・隣近所の顔が見える
- ・二王子登山を自治連合会主催でやっている 今後も続けてください
- ・食糧が生産できる
- ・農作物が豊富
- ・自然が良い(四季)
- ・自然の中で生きている
- ・山・川・自然が豊かである
- ・空気がきれい
- ・夜が静か
- ・教育村
- ・保育園・小学校・中学校が1か所に集まっている
- ・川東小学校があり、子どもが集まる場所がある
- ・子ども達のあいさつが良い
- ・子ども達の元気なあいさつがある
- ・昔から学ぶ姿勢に名高い風土・学校村・高齢者大学の参加人数も70人以上
- ・隣近所は助け合いをする程、仲が良い
- ・近所の付き合いがある所
- ・孫が居るので、学校のボランティアが楽しみ
- ・コミュニティバスが走っている 移動が便利になった
- ・元気なお年寄りが大勢いる
- ・精肉店(地元の手作り惣菜、地方発送、配達)個人商店(たたみ屋、電器屋)地元経営を頑張っている
- ・川東 清水フード買い物に便利、配達対応もしている
- ・農協(会議室)は昔から、地域の集まりの場になっている
- ・郵便局・JAがあり、お金の出し入れに便利
- ・隣近所から新鮮な野菜をもらえる
- ・老人クラブ春夏秋冬の行事
- ・安心して生活できる 大きな災害がない
- ・山、川、緑、自然が多い所

- ・災害が少ない
- ・健康づくりの運動会がある
- ・村まつりの行事がいっぱい
- ・学校を地域で支えている
- ・住民の方が親切である
- ・お年寄りが多く、声をかけると笑顔で答えてくれる
- ・集落では「まとまり」が良い
- ・近所付き合いがとても良くて楽しい話し合いが出来ます
- ・ゲートボールや老人クラブをすると集まりが良い
- ・川東は自然環境が良い
- ・「みどり」が多い
- ・田んぼや畑が多く、自然が豊か
- ・自然豊かなところ
- ・お米がおいしい
- ・お店は少ないが、配達してくれるところが多い
- ・市街地からの転入や、外国人で転入してくる人がいる
- ・小学校が1つになった
- ・学校に協力的
- ・旧小学校の有効活用が出来ている
- ・教育村として誇りがある
- ・コミュニティバスが走っている
- ・交通機関が良い
- ・助け合いがある
- ・リーダーがいてとても協力的な所があります
- ・行事がたくさんあり、人との関わりがあって活発な所が良いです
- ・集団活動が活発
- ・友愛訪問活動が続いている
- ・あいさつが良い
- ・子ども達のあいさつがとても良い
- ・小学生が朝のあいさつを大変良くする
- ・困った人がいた時、助けてくれる人が身近にいる
- ・隣り近所、お互いあいさつを交わされる
- ・生活のリズムが早い（ノンキ）
- ・年齢問わず、とても仲が良い
- ・顔の見える近所づきあい
- ・農業が盛ん
- ・米がうまい
- ・自然豊か
- ・食べ物、水、空気、いずれも大変良い
- ・農業するには、非常に適している
- ・二王子岳
- ・登山がある
- ・川で泳げる
- ・スキー場がある
- ・朝日が美しい
- ・景色がいい
- ・緑がいっぱいだ
- ・災害が少ない
- ・ごちそうを食べている
- ・お店がたくさんある
- ・コンビニもある
- ・美しい女の子が多い
- ・美人が多いので男性が来てくれて、結婚も何とかうまく行っているかな
- ・人柄がいい
- ・仏様（先祖）を大切にしている
- ・子どもが素直
- ・横のつながりがある、助け合い
- ・人のつながりが優しい
- ・教育村の伝統
- ・教育熱心である
- ・子どもの声が聞こえる
- ・自治会の運営に多くの意見があるが、決まると全員が従うところ
- ・年に地域での祭りが多くあり、他地域の人（新大生等）と関わりがある
- ・行事が多く、子どもお年寄りなどに関われる
- ・集落行事に積極的に参加してくれる
- ・地域の子どものために、いろいろな対応が早い（バス停小屋、歩道整備等）
- ・自治会のまとまりが良い
- ・古い歴史文化が残っている
- ・自然が美しい



2 身近なところで困っていること

- ・空家・廃屋が多い
- ・自殺者が多いと言われている
- ・コミュニケーションが取れない
- ・隣の家であっても、あまり入り込めない面がある（民生委員）
- ・近所に若い人がいない（出て行ってしまう）
- ・人口減が止まらない（人口流出）
- ・近所にうちの子と同じくらいの年の子がいない
- ・川東小・中学校生徒の虫歯が多い
- ・小学校が合併したことにより子どもの通学距離が短くなり、運動機能の低下が心配です（バス通学になった）
- ・中学校の部活終わり頃にも、バスを出してもらいたい
- ・土日等、バスが無い
- ・川東分遣所に救急車が無い
- ・無関心が増加している
- ・除雪が悪い
- ・道路が良くない
- ・子どもが裏で何をしているのか、わからない
- ・伝統行事（盆おどり）をやらなくなった
- ・少子化が進んでいる
- ・子どもが少なくなってきている
- ・子ども達が少ない（保育園、学校の統合化）
- ・若者が（結婚後）川東地区から転出する
- ・嫁がない
- ・若い未婚女性が少ない
- ・家の跡取りの人がなかなか結婚しない
- ・若者の独身者が多い
- ・後継者のいない世帯が増えている
- ・付き合いを迷惑に感じられる
- ・心づかいとおせっかいが、同義語になっている
- ・地域の役割を担う人間が片寄っている



- ・地域に無関心な人が多い 個人主義の傾向
- ・リタイヤした方の地域参加が少ない
- ・閉鎖的
- ・空家が増えてきた、不用心だ
- ・仕事優先になり過ぎ（行事が出来ない）
- ・子どもの下校時間のバスがない（高校の部活後）
- ・公共交通が不便（コミバスが開通したが…）
- ・県道・市道の拡幅、歩道の設置
- ・堤防への不法投棄増（雑木の伐採）
- ・加治川以外の川が草だらけで荒れている
- ・畑作について人手不足
- ・農地について人手不足
- ・雪がちょっと多い
- ・子どもの人数が少ない
- ・子どもの数が減って地域がさみしい
- ・子ども達の遊び場がない（少ない）
- ・世帯の数が減っている
- ・若い人が町場に出て行って、盆踊りがつらい
- ・認知症の方が増えている
- ・高齢者世帯（夫婦）や高齢者一人暮らしが多くなって
いる
- ・老人のみ世帯が増加、非常時が心配
- ・最近、高齢の人口が増えて来ているので、団体活動
（集落事業）が不安
- ・近くに店が無く、車が無いと生活ができない
- ・農家が減って会社員が増えたことで、地域の活力が失
われてきた
- ・集落内に、大型ダンプが通る
- ・土日バスが走ってほしい
- ・小川がなくなり、メダカ（魚とり）もできなくなった
- ・近くの商店が無くなった



- ・結婚していない人が何人かいるので、何とか結婚してほしいと思っています
 - ・「自分の為」だけにしか動かない人が多い
 - ・協調性のない住人が多い
 - ・猿が多く出て、一生懸命作った畑の物が、全部持って行かれて困っているのを聞いてかわいそうに思っています どうにかならないか!
 - ・山間地の環境（猿被害等）
 - ・薬局が近くにない
 - ・講演会などが市内にあっても行きにくい
 - ・年をとって楽しめる場が少ない
 - ・雪が積もると大変
 - ・耕作放棄、山林荒廃
 - ・ウォーキングする自然に恵まれているが、ロード（マップ）がない、整備されていない
 - ・仕事量が多い
 - ・結婚しない男性が多い、少子化につながる
 - ・人口減少 子ども達が少なくなった
 - ・未婚の男性女性が多くいる
 - ・子どもの数が少ない
 - ・40才以上でお嫁さんがいない人が多い
 - ・高齢者の集まる場がない（指導する人がいない）
 - ・若者が会社勤めに出ていて、集落に自治会活動、消防団活動が出来なくなった
 - ・地域の公園の遊具が少ない
 - ・祭り等がかかわる集落の人間が限られている
 - ・人の繋がりが希薄化している
 - ・ゴミが捨てられている
 - ・本来、役所で行う事務が集落につけが来たような部分が多い
 - ・農業が衰退して、将来展望が見いだせない
- ・お店が少ない
 - ・子どもが少ない
 - ・若い世代が少ない
 - ・子どものいない年寄りがいる
 - ・せっかく学校が1つになったのに、子どもの人数があまり変わらない
 - ・加治川のランド周辺にゴミを捨てて困る
 - ・集落行事が少ない
 - ・自治会役員のなり手がいない
 - ・若い人のつながりががない
 - ・若い人を消防団に誘っても、入ってもらえない
 - ・お隣さんが遠い
 - ・同じ集落内でも距離が離れた所の人と交流が少ない
 - ・交通の便が悪い
 - ・市道が狭い
 - ・近所の猫の「フン害」で困っている
 - ・雪が多い
 - ・雪が降ると道路が狭いので、通行が悪くなり困る
 - ・猿が多く困っている
 - ・食品残飯が多い
 - ・医者に行くのに車が無い（送ってくれる人がいない）と行きにくい
 - ・子どもが少ない
 - ・遊ぶ子どもが少ない
 - ・世帯の減少
 - ・親戚のおばあちゃんが、一人暮らしになった
 - ・一人暮らし高齢者の家庭が多い
 - ・若い人の活躍の場面がない
 - ・集落のお祭りなど出席（参加）が少ない
 - ・飲み会に来る人が少ない
 - ・独身者の問題



3 こんな地域であつたらいいな

- ・救急車が地元であれば良い
- ・老人に優しい地域
- ・多くの職場があればいい
- ・身近に医院があつたらいい
- ・川東に医院が欲しい！（幼、川小、川中があるので）
- ・市営放牧場がフラワー公園やグランドゴルフ場になつたらいい
- ・隣近所で井戸端会議のような時間が持てるといい（連帯意識が強まることの意味）
- ・良いことばかりを共有するのではなく、辛いこと切ないことでも共有できるようになりたい
- ・流通などは不便ですが、子ども達が「将来地元に残りたい」と思えるような地域であつてほしい
- ・向こう三軒両隣の付き合いが出来ればいいのかな
- ・高齢者が元気であつてほしい
- ・学校の休日は、子ども達が外で元気に遊んでいる声が聞かれる地域であつてほしい
- ・若い女性が住み易いと感じる地域、子育てがしやすい地域
- ・子ども達の弾む声が聞こえる地域が望ましい
- ・子どもの数が増える地域
- ・高齢者、子どもを含め住み慣れた地域に、楽しく暮らして行けるような地域
- ・若者が定着出来る地域にしたい
- ・交流人口が増える、活性化した地域が望ましい アグリ専門学校等との交流はあるが、それ以上に外国人の交流もあるとよい
- ・ゆったり、のんびりした…農村社会であつたらいいな
- ・前向きな議論ができる地域
- ・ラジオ体操は集落内参加できる人は、全員で出来たら良い
- ・大友稲荷大祭の復活をお願いしたい
- ・集落全員の名前が分かる
- ・恥を知る関係を持つ
- ・隣人と常に仲良く暮らしたい
- ・他の地域に自慢できること、物がある地域
- ・子どもの声が、たくさん聞こえるようになったらいい
- ・子どもから、おじいちゃんおばあちゃんまで、つながりのある地域
- ・認知症になつても、住み慣れた家で生活できたらいい（近所の人が声をかけてくれたり、ちょっとした支えがあれば、施設に行かなくてもよい人もたくさんいる）
- ・お年寄りも子ども達も、笑顔いっぱい地域であつたらいい
- ・子ども達が、だれにでも元気にあいさつできる
- ・お年寄りを大切にする
- ・交通安全週間や学校行事などに、いろいろな世代が一緒に関われ、顔見知りになれたらいい
- ・素直に声をかけられる
- ・隣同士、気軽にコミュニケーションが取れるようになればいい
- ・地域の特産がもっとできたらいいな（お米の他に）
- ・お年寄りが、気軽に集まって話し合えるところがあったら良い
- ・活気のある町であつたら良い
- ・自分の特技を人に教える
- ・若い人が住みやすい地域
- ・働く所（工場）があれば良い
- ・今以上に、元気で健康で仲良く楽しく
- ・老人に楽しい地域づくり
- ・お年寄りのマンパワーを活かせる場があつたらいいな
- ・困った時には、駆けつけてくれるようなつながりがあつたらいいな
- ・困った時に声を出して助け合う
- ・何でも話し合える地域
- ・困っていることを助け合える地域
- ・水害のない地域になつてもらいたい！困っている
- ・大人が子どもの見本になる
- ・朝日とともに仕事して、暗くなったら帰る
- ・家で暮らしても稼げる
- ・働く場が必要
- ・ゲームがなくても、子ども同士で遊べる
- ・年齢差に関係なく話し合える地域
- ・集落にとどまらず他集落との交流を計る
- ・飲み会をもっと多く
- ・若い人（男子）に嫁が来る地域になつてもらいたい
- ・美観あふれる農村風景
- ・ゴミの無い地域になつてもらいたい

- ・きれいな住みよい地域
- ・健康づくりを積極的にする人の多い地域
- ・孤独死がない
- ・おせっかいな人が多い
- ・困った時、助けあえる地域
- ・集落の皆が、心ひとつになって物事を進められたらいい
- ・子ども、老人が安心して住める地域
- ・年令問わず、交流の出来る機会を多く設けて、活気ある地域になってほしい いろいろと良い面が出てくると思う
- ・年令問わず、あいさつの出来る地域
- ・人の集まる（住む）地域でありたい
- ・注目される
- ・外から人が来る
- ・美しい風景と活力の共存
- ・自給自足ができる
- ・子どもがたくさんいる
- ・一人暮らしでも安心して暮らせるまち
- ・身近に働く場がほしい
- ・地域の農業が活発であってほしい
- ・年令に関係なく集まる場があったら
- ・地域の人が、飲んだり食べたり遊んだりおしゃべりの出来る交流の場があってほしい
- ・集落人口があまり減らないでほしい
- ・小中学生と大人達と一緒に、運動会や集落対抗戦をやりたい
- ・小学生のコミュニティバスに、全集落の子ども達が乗れるようになってほしい
- ・子どもが多く外で遊ぶような地域
- ・顔が見えて、話しが出来る地域であつたらいいなと思う
- ・川東の歴史文化の保存物、展示物を一カ所に集めた施設がほしい
- ・コミュニティセンターに、地元の農産物の展示即売会を定期的にやつたらいい
- ・ゴミのないまち
- ・二王子山に公衆便所の設置

4 私たちにできること

- ・非常に困難だと思います 一人一人の意識を変えるのは、時間をかけて声かけなどしなければいけない
- ・保育園・小学校・中学校が並んでいるので、これらで高齢者とふれあう行事等があれば良い
- ・あいさつ、声かけ
- ・私にできること健康の為にウォーキングをしていますが その時、普段会わない人に会えたりして会話ができる
- ・子育て支援をしたい
- ・一人世帯になった人に、必要になったことのお手伝いをしてあげる、又村の協同作業は免除してあげる
- ・身近な人へのあいさつ、声かけ、安否確認等のボランティア活動
- ・子どもの登校時、付き添い（見守り）を実施している 子どもも大人も、大きな声であいさつをする
- ・隣近所安心見守り運動（声かけ）
- ・出来るだけ地域活動、地域参加すること
- ・高齢者、一人暮らし、要介護者の見守りは各団体と協力していく（個人のプライバシー守秘義務を配慮した情報提供）
- ・培った専門的な能力を、地域で活用すること
- ・アイデアや経験を地域に還元したい
- ・子どもからお年寄りまで年に何回か集まり、懇談・イベントをする
- ・旧小学校区を越えた、意識活動にしたい
- ・できる範囲で農地を維持したい
- ・自主防災組織の活性化
- ・隣近所で気軽に遊びに行ったり話をしたり、お茶飲みができる様な地域にできたら
- ・認知症の高齢者が増えているので、小学生・子ども達が認知症高齢者の対応に戸惑いが無いようわかり易く説明する



- ・包括支援センターで、認知症の方に対応する方法を説明する会を行う（認知症サポーター養成講座）
- ・包括支援センターにて要介護にならないように元気で生活する為の心と体の健康についての話し合いをする
- ・包括支援センターにて介護保険についてのお話し会をする（申請手続き方法、サービスの内容、利用方法）
- ・ボランティア参加
- ・特技を教える
- ・地域の清掃
- ・いろいろなボランティア活動
- ・地域の行事に参加する
- ・住民への声かけ
- ・他人のことを気にかける
- ・人を見かけたらあいさつをする
- ・私は、児童の登下校時に声をかける
- ・あいさつをする
- ・年寄りの話を聞く
- ・がんばる
- ・自分が幸せになる、そして伝える
- ・笑顔でいる
- ・地元でお金を使う
- ・世の為、人の為に行動する
- ・人と人のつながりを、作ってあげられるような役になりたい
- ・積極的に行事に参加する
- ・何事にも進んで参加するように
- ・自ら元気よく
- ・健康づくり
- ・食推による健康的な食生活の推進
- ・介護保険制度の上手な使い方
- ・集落内は車の速度を落とす



- ・子ども、老人の方の話し相手や聞き上手になりたい
- ・隣近所、常に良くすること（話し合い）
- ・おせっかいになる
- ・高齢者に声をかける
- ・一人暮らしの方には、特に配慮する
- ・子ども達に積極的に声をかける
- ・きれいな村づくりです
- ・川東の良い所を発信する
- ・若者が居つく集落にしたい
- ・子どもの見守り隊を作りたい
- ・家族を大切にする
- ・小中学生との交流活動
- ・川東コミュニティセンターの早期実現
- ・自治会で年4回の集団で廃品回収をし、年間7万円位の収入がある
- ・老人クラブで作業奉仕活動がスムーズに行われている
- ・村の祭りや子どもみこし太鼓たたきの復活
- ・地域の行事に参加し、次の世代に地域の文化を引継いでいく
- ・川をきれいにしたり、川のゴミ拾いをもう少し多くやる
- ・共同墓地と個人の墓地を、年2回全員で掃除をすること
- ・ゴミを拾う
- ・未婚対策の情報支援



6 参考資料

「新発田市地域福祉（活動）計画」の基本理念と体系

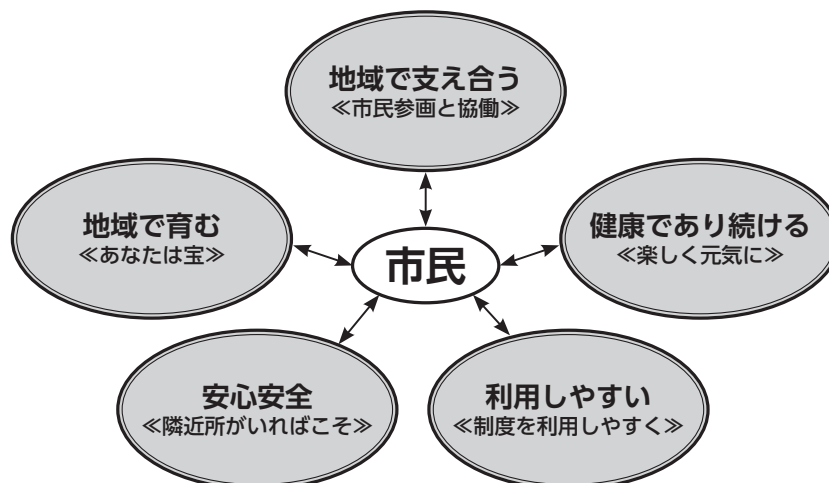
1 基本理念

新発田市に暮らす子どもや若者から高齢者までの誰もが、新発田市の歴史と風土を大切に、新発田市民であることを誇りに思う新たな福祉の地域づくりをめざし、新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念を次のものとします。

～新発田市地域福祉（活動）計画の基本理念～
すべての市民が住みなれた地域とともに支え合い、
安心して暮らせる福祉の地域づくり

※「出来るものならば、ずっと育ってきた地域で自立して生きていきたい。」だれもが望む幸せとは、このような当たり前のことではないでしょうか。

地域福祉（活動）計画は、顔の見える一定の地域を面として、「地域の市民力」「地域の資源力」「行政力」という3つの力を活かし、地域に住んでいる住民や地域で活動している民間団体や事業所が、社会生活を送るうえでお互いに支え合うというわかりやすい仕組みを、行政との協働により住民自ら創り、自ら地域の実態に即した活動を展開するためのものです。そのためには、「地域のことは地域で」（下図参照）を基本として、地域に暮らすだれもが笑顔の中に生まれ、自分らしく健康で自立した生活を送り、生きることに喜びを見出していける地域社会の実現を目指します。

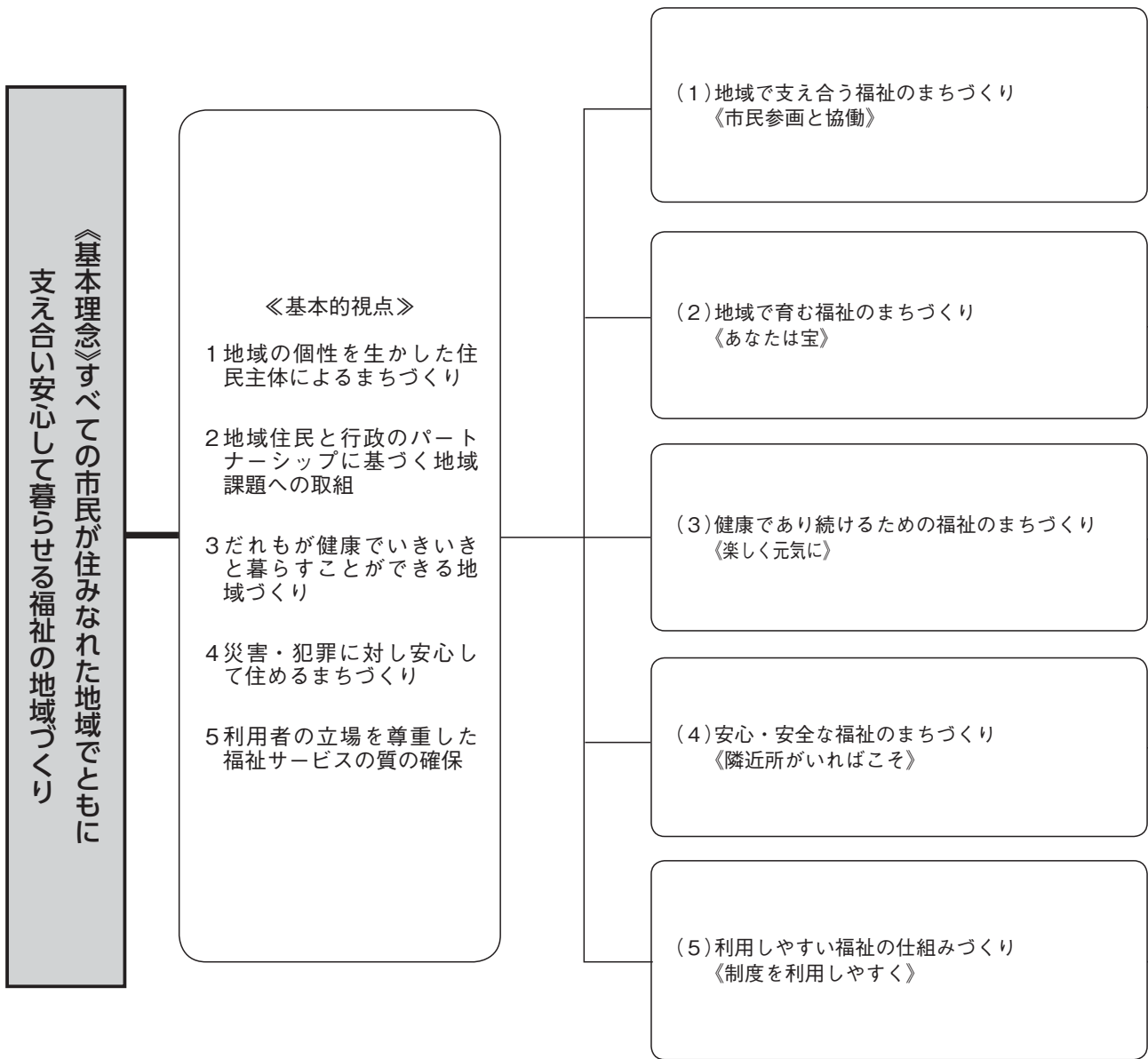


新発田市地域福祉（活動）計画は、地域福祉をより効果的に推進するため、市が策定する「地域福祉計画」と社会福祉協議会が住民とともに策定する「地域福祉活動計画」を一体化して策定したものです。新発田市及び新発田市社会福祉協議会のホームページに掲載されております。

問合せ先：新発田市社会福祉課 新発田市社会福祉協議会

2 計画の体系

新発田市は、以下の基本理念に基づき、それぞれの重点課題について、施策を実施しながら



ら計画の推進に取り組んでいきます。

田園文化都市、しばた

重点課題

《重点課題1》
少子高齢化や障がい者に対応した地域での支え合いづくり

《重点課題2》
健やかな子育てと若者世代を支援する施策づくり

《重点課題3》
住民主体による健康増進や介護予防活動の推進

《重点課題4》
地域での防災・防犯力の強化や災害時要援護者

《重点課題5》
利用者のニーズに応じた福祉サービスの質の保証

施策の方向性

- ①住民主体による組織づくりの促進と条件整備
- ②住民、民間団体、行政相互の連携体制や協力関係の構築
- ③ひとり暮らし高齢者、障がい者などへの地域の民生委員や住民による見守り体制や「地域の茶の間」の充実

- ①地域での子育て支援のための体制づくり
- ②地域、民間事業者及び行政の連携・協力体制の整備
- ③楽しく集うための場所や交流の場の設置
- ④人材育成につながるネットワークの仕組みづくり

- ①新たな生きがいがづくり(地域の方の豊富な人生経験に基づく多彩な知恵をお借りする)
- ②こころと体の健康づくりと介護予防
- ③障がい者などの自立と社会参加の促進

- ①災害時等の要援護者への対策実施
- ②防災・防犯情報の提供
- ③道路の段差などのバリアフリー化
- ④高齢者世帯等への除雪・雪下ろし支援体制づくり

- ①利用者の様々なニーズに対応できる情報の発信及び提供
- ②地域において住民同士が気軽に相談できる支え合いの仕組みづくり
- ③介護、福祉サービス等の質の確保

川東地区福祉懇談会

第1号 | 平成26年11月1日

回覧

誰もが住み慣れた
地域で安心して生活
を送るために

地域の人と人とのつながりを大切に
し、お互いに助けたり助けられたりす
る関係やその仕組みづくりを目指して



第1回川東地区福祉懇談会

日時 平成26年10月15日(水)
会場 農業サポートセンター
参加者 住民40人、市・社協・包括18人

①開会挨拶

川東地区自治連合会 会長 相馬義雄

②趣旨説明

新発田市 社会福祉課

③勉強会

敬和学園大学 講師 川本健太郎氏

④グループワーク

⑤閉会挨拶

川東地区自治連合会 副会長 井伊栄子

福祉活動計画の理解を深め より顔の見える関係に

これからのまちづくりは、子どもから高齢者まで住民の誰もが住み慣れた地域の中で、心豊かに安心して暮らせるような仕組みをつくり、それを持続させていくことが求められています。

そのためには、さまざまな生活課題について住民一人ひとりの努力(自助)、住民同士の相互扶助(共助)、公的

な制度(公助)の連携によって解決していこうとする取り組みが必要です。

川東地区福祉懇談会では、住民や関係団体、社会福祉協議会、行政が、福祉懇談会を通じて、地域の良いところや課題などを共有しながら、住民の行動計画である「川東地区福祉活動計画」の策定を目指しています。

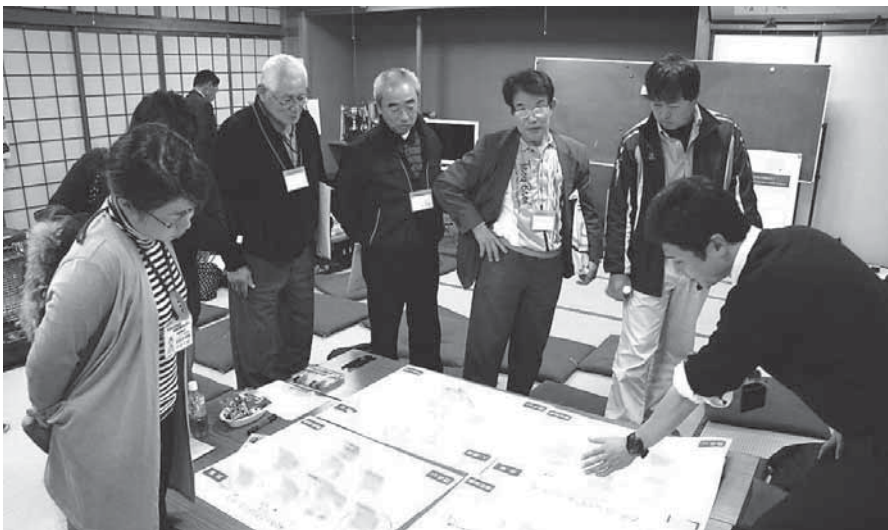
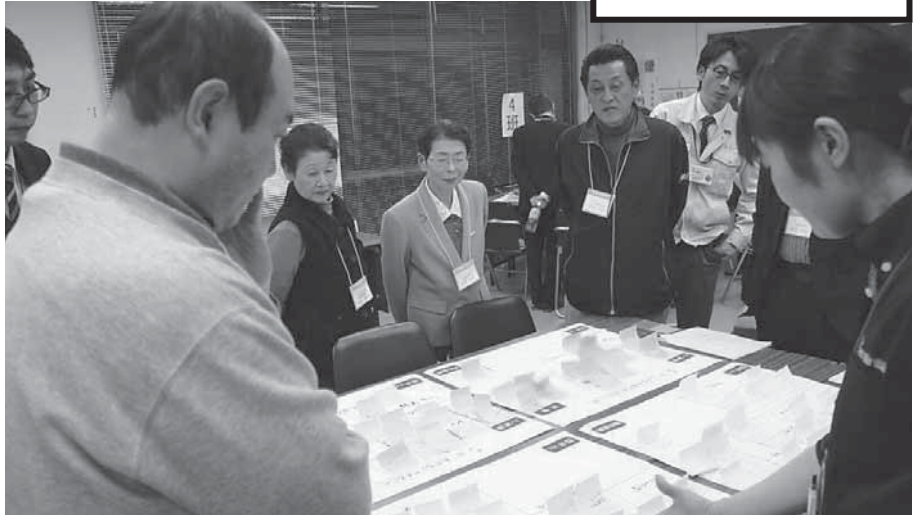
川東地区福祉懇談会

第2号 | 平成26年12月1日

回覧

地域のすべての人が
自分らしく安心して暮らして
いける地域を目指して

互いに支え合い、一人ひとりが自分たちの
できる事を考え、地域福祉の基本的な
考え方に基づいて、主体的に参加・協働
する地域に向けて



第2回川東地区福祉懇談会

日時 平成26年11月19日(水)
19時00分~21時00分
会場 農業サポートセンター
参加者 住民21人、市・社協・包括16人

①開会挨拶

川東地区自治連合会 副会長 井伊栄子

②グループワーク

- ・前回の振り返り及びまとめ
- ・地区の現状と課題の整理
- ・グループ発表

ほっとけないの「気づき」を 伝える仕組みづくり

核家族化や少子高齢化によって「向こう三軒両隣」のような日本の古きよき伝統文化が姿を消しつつあります。

その結果、家族や地域とのつながりのカタチが変化し、地域の伝統文化や郷土愛も薄れ、地域資源が豊かであるにも関わらず継承が困難な状況になっています。

そのため“川東地区福祉懇談会”では、より多くの住民

に地域への関心を持ってもらい、顔の見える地域づくりを基盤に「気づき」を伝える仕組みを目指します。

第2回懇談会では、グループごとに第1回懇談会で話し合われた4つのテーマ（地域の魅力・地域課題・これからの地域像・これから取り組めること）の内容を振り返りながら意見などを整理し、会場全体で共有しました。

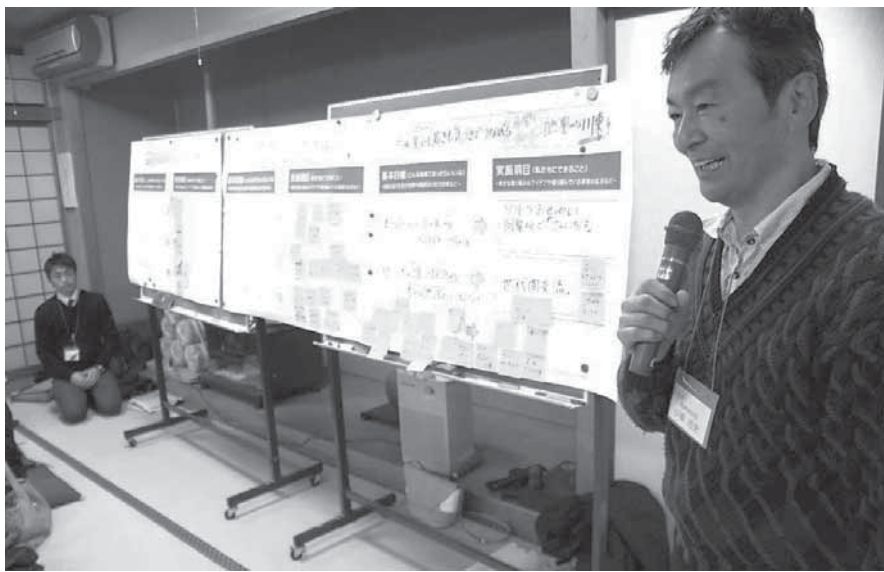
川東地区福祉懇談会

第3号 | 平成27年1月20日

回覧

地域のSOSを
見逃さない
つながりのある
地域をつくる

地域のつながりを実感できるように
身近な地域で福祉活動を活性化し、
新しい地域づくりを目指します



第3回川東地区福祉懇談会

日時 平成26年12月15日(月)
19時00分～21時15分

会場 農業サポートセンター

参加者 住民15人、市・社協・包括18人

①開会挨拶

川東地区自治連合会 会長 相馬 義雄

②グループワーク

- ・前回の振り返り及びまとめ
- ・基本目標の検討
- ・スローガンの検討
- ・グループ発表

③閉会挨拶

川東地区自治連合会 副会長 井伊 栄子

これからの地域を話し合い 誰もが参加できる取り組みを目指して

ご近所の助け合いによって
支えられてきた人々の暮らしが、
生活の孤立化、複合的な課題を抱える世帯の増加、
地域での連帯感の希薄化などが
すすみ、制度の谷間にあって
対応できない課題も多く生じて
きています。

“川東地区福祉懇談会”
では、地域の住民が主体とな
って地域での支え合いをすす
める取り組みを活性化し、住
み慣れた地域でこれまでの社

会関係を維持しながら、誰も
が生きがいを持ち、地域の社
会資源として役割を発揮する
地域づくりに向けて力を合わ
せることが必要と考えます。

第3回懇談会では、第2回
のグループワークで話し合わ
れた内容を振り返りながら、
整理したキーワードをもと
に、川東地区福祉活動計画の
基本目標やスローガンを検討
しました。

老いも若きもみんなが楽しめる川東

筆者 千龍院 桂斎（築井 正紀）

川東地区編集委員会		
No	団体名	氏名
1	自治連合会	相馬 義雄
2	自治連合会	井伊 栄子
3	自治連合会	小柳 尚史
4	自治連合会	沼澤 功
5	自治連合会	伊藤 精一
6	自治連合会	阿部 隆子
7	自治連合会	大越 清栄
8	川東地区民生委員児童委員協議会	阿部 誠治



川東小学校 校歌

作詞 渡邊 裕之
作曲 井上 力

春

二王子山に若葉萌え
命輝く朝が来る
光の中の ふるさとよ
わが川東 希望あり

夏

加治川清く澄みわたり
青空映し流れ行く
共に学ぼうきたえよう
わが川東 誇りあり

秋

稲穂ゆらして吹く風に
黄金の波の豊かさよ
あふれる愛につつまれて
わが川東 恵みあり

冬

真白き雪の この大地
未来への想い育みて
夢を抱いてはばたこう
わが川東 真心あり

～みんなでつながる福祉のまちづくり～

編集：川東地区福祉懇談会・川東地区自治連合会
新発田市・社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

発行：平成27年3月
新発田市

〒957-8686 新発田市中心4丁目10番4号
TEL 0254-22-3101

社会福祉法人新発田市社会福祉協議会

〒957-0054 新発田市本町4丁目16番83号
TEL 0254-23-1000